

安全データシート
生石灰 粉 20kg

整理番号：chikugo-2
作成年月：2017 年 4 月

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	酸化カルシウム
会社名担当部署	全国農業協同組合連合会肥料農薬部
住所	〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号	03-6271-8285
Fax 番号	03-5218-2536
電子メールアドレス	zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡電話番号	03-6271-8285
推奨用途及び使用上の制限	肥料用及び肥料原料用

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外

健康に対する有害性

酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性(経口)	区分5
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分1C
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分1(呼吸器系)、 区分2(全身毒性、消化器)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分1(呼吸器系)
吸引性呼吸器有害性	区分1
水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険有害性情報:

危険
H303:飲み込むと有害のおそれ(経口)
H314:重篤な皮膚の腐傷・眼の損傷
H318:重篤な眼の損傷
H370:呼吸器系の障害

注意書き:	H371:全身毒性、消化器の障害のおそれ
	H372:長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害
	H304:飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
	【予防策】
	P260:粉じんを吸入しないこと。
	P280:保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
	【対応】
	P305+P351+P338:眼に入った場合:流水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P301+P330+P331:飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
	【保管】
【廃棄】	P405:施錠して保管すること。
	P501:内容物、容器を国・地域のすべての法規に従い廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質

単一製品・混合物の区別:	単一製品
化学名又は一般名:	酸化カルシウム
別名:	生石灰
成分及び含有量:	93.0%以上
化学式:	CaO
CAS番号:	1305-78-8
官報公示整理番号	(1)－189

4. 応急措置

吸入した場合:	多量に吸入した場合は空気の新鮮な場所に移動させ医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合:	皮膚を速やかに多量の水と石鹸で十分に洗浄すること。
目に入った場合:	眼球を傷つける恐れがあるため、眼を擦らないで清浄な水で十分に洗浄する。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合:	清浄な水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤:	周辺火災の場合は、乾燥砂等で窒息消火する。 水以外のすべての消火剤の使用可。
特有の危険有害性:	不燃性であり、火災・爆発の危険性はない。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(保護メガネ、防塵マスク、保護手袋、保護衣)を着用し、粉塵の吸入及び皮膚への接触を防止する
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。
回収、中和:	乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策:	皮膚、眼との接触、粉塵の吸入を防ぐため保護具(保護メガネ、防塵マスク、保護手袋、保護衣)を着用する。
安全取扱い注意事項:	空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 水と反応して、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生することがある。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
技術的対策:	密栓して乾燥した冷暗所に保管し、大気との接触を避ける。 防湿に留意する。 消防法の定めるところによる。
容器包装材料:	耐アルカリ性容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	日本産業衛生学会(2006年版) 設定されていない。 ACGIH(2006年版) TLV-TWA 2mg/m ³ 気中濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。
設備対策:	
保護具	
呼吸器の保護具:	防塵マスク
手の保護具:	保護手袋(ケミカルグローブ)
眼の保護具:	保護メガネ(ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具:	保護衣

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	白色～灰色結晶性粉末 ^{1), 2)}
臭い:	無臭 ⁸⁾
pH:	データなし
融点・凝固点:	2570℃ ⁴⁾ 2614℃ ⁶⁾ 2572℃ ¹⁾
沸点、初留点及び沸騰範囲:	2850℃ ^{4), 6)}
引火点:	不燃性
爆発範囲:	データなし
比重(密度):	3.3-3.4 ⁴⁾ 3.37 ⁶⁾ 3.32-3.35 ¹⁾
溶解度:	水と反応する。 ⁴⁾ 1g/840mL水。 ⁸⁾

10. 安定性及び反応性

安定性:	空気中の水、炭酸ガスを吸収して水酸化カルシウムと炭酸カルシウムを生成する。
危険有害反応性可能性:	水と反応して、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生する。 塩酸と接すると激しく反応する。
避けるべき条件:	水、酸類、可燃物、金属類との接触。
混触危険物質:	酸類、ハロゲン類、金属類。
危険有害性のある分解生成物:	なし。

11. 有害性情報

急性毒性:	経口 マウス LD ₅₀ 3059mg/kg ³⁾ 飲み込むと有害のおそれ(区分5)
皮膚腐食性・刺激性:	皮膚に対して腐食性。 ⁴⁾ 湿った皮膚に対して強い刺激性。 ¹⁰⁾ 国連分類クラス8、III。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1C)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:	眼に対して腐食性 ⁴⁾ の記載と、皮膚腐食／刺激性のGHS分類が区分1Cであることより、区分1に分類した。 重篤な眼の損傷
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	呼吸器感作性: データなし。 皮膚感作性: ヒトの試験で陰性 ⁷⁾ の記載により区分外とした。
生殖細胞変異原性:	酵母菌による有糸分裂組み換え試験で陰性、エームズ試験で陰性 ⁷⁾ <i>in vivo</i> のデータはない。分類できない。
発がん性:	データなし
生殖毒性:	ラットとマウスの1世代試験で影響なし ⁷⁾ の記載があるが、データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露):	粉じん吸入は気道の炎症 ¹⁰⁾ 、肺炎 ⁸⁾ を起こすとの記載により区分1(呼吸器系)に、誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。食道、胃の穿孔も生じる ⁸⁾ の記載もあるが、Priority2であるため区分2(全身毒性、消化器)に分類した。 呼吸器系の障害 全身毒性、消化器の障害のおそれ
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露):	鼻中隔の潰瘍、穿孔の報告がある ^{4), 10)} の記載により区分1(呼吸器系)に分類した。 長期または反復ばく露による呼吸器系の障害
吸引性呼吸器有害性:	ヒトで吸引性肺炎が報告されている。 ⁸⁾ 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ(区分1)

12. 環境影響情報	
水生環境急性有害性:	魚類(コイ)の96時間LC ₅₀ =1070mg/L ⁷⁾ から、区分外とした。
水生環境慢性有害性:	難水溶性でなく(水溶解度=1200mg/L ²¹⁾)、急性毒性が低いことから、区分外とした。
13. 廃棄上の注意:	
残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 発熱のおそれがあるので大量の水中に少しずつ投じ、消石灰とし、これを希硫酸で中和して処理する。
中和法	容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分
汚染容器及び包装:	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	非危険物
海洋汚染物質	非該当
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
国連分類:	Class 8 腐食性物質
国連番号:	1910
国連輸送品名:	Calucium oxide
容器等級:	III
国内規制	
陸上規制情報	特段の規制はない。
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	航空法の規定に従う。
緊急時応急措置指針番号	157
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令	
労働安全衛生法:	名称等を通知すべき有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) (政令番号 第190号)
消防法:	貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の2 貯蔵等の届出を要する物質)
航空法:	腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
化学物質管理促進法(PRTR法):	該当しない
16. その他の情報	
参考文献	
1) Merck (13th, 2001)	11) 化学物質の危険・有害性便覧 中央災害防止協会(1992)
2) Sax (11th, 2004)	12) 発がん性物質の分類とその基準第6版 日本化学物質安全・情報センター(2004)
3) RTECS(2004)	14) GHS分類結果(日化協G)
4) ICSC (1997)	15) 日化協「緊急時応急措置指針、容器イエローカード(ラベル方式)」
5) Weiss (2nd, 1985)	16) 日化協「化学物質法規制検索システム」(CD-ROM) (2005)
6) NFPA (13th, 2002)	17) 日本ケミカルデータベース(株)「化学品総合データベース」(2005)
7) IUCLID (2000)	18) 安全性DB (改訂増補版, 1997)
8) HSDB (2005)	19) JETOC「化審法の既存化学物質安全性点検データ集」
9) ホンメル (1991)	20) 環境省「化学物質の生態影響試験事業」
10) ACGIH (2001)	21) HSDB(2004)

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価については、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱いください。

本 SDS は、下記株式会社筑後物産の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名:	株式会社筑後物産
住所:	福岡県筑後市大字上北島833
電話番号:	0942-53-4128
FAX番号:	0942-52-2642